

特

集

## 果樹ハダニ防除における天敵利用 施設ミカンにおける防除体系

佐賀県上場営農センター かわ川 うち内 こう孝 た太

### はじめに

佐賀県の施設ミカン栽培は全国1位の栽培面積を誇り、本県の果樹品目において重要な位置を占める。施設ミカン栽培では、果径30mmに達したころから収穫時期まで品質向上を目的とした節水管理を行うため、ハウス内が長期間高温乾燥状態になり、ミカンハダニ *Panonychus citri* (以下、ハダニ) にとって好適な条件となる。このためハダニの増殖速度が非常に速く、急激に多発することで葉や果実の加害に伴う落葉や樹勢の低下、果実の着色不良を引き起こし商品価値が大きく損なわれ、本県のみならず全国の施設ミカン産地で大きな問題となっている(図-1)。本稿では、施設ミカンにおいてスワルスキーカブリダニ(以下、SW)製剤を用いたハダニ防除体系の実証試験を実施したので、その結果を紹介する。

### I 佐賀県内におけるハダニ防除の実態

施設ミカンにおいてハダニは栽培期間を通じて発生す

るため、年3~4回発生のピークが見られることもある。現在のハダニ対策は殺ダニ剤の散布に大きく依存しているが、殺ダニ剤を連用することでハダニの薬剤抵抗性獲得が著しく、ていねいに散布したとしても期待する防除効果が得られず難防除害虫となっている。また、ハウス内での散布作業は高温下での長時間労働であり、作業者の農薬被曝が多いことから生産者の大きな負担となっており、殺ダニ剤散布回数を削減できる技術開発が求められている。

### II 天敵製剤の利用

施設ミカンにおいて殺ダニ剤に替わる防除方法としてSWの利用が以前から検討されていたが、樹体に直接放飼するためSWが樹上に定着せずハダニの発生抑制に対応できていなかった。そこで、今回隠れ場所やエサをあらかじめ提供し長期間SWが放出されるスワルバンカー®(石原バイオサイエンス(株)、以下;SB)(p.23参照)を利用したハダニ防除効果を検証した。



図-1 ミカンハダニに加害された葉(左)と果実(右)

Control Program for Satsuma Mandarin Grown in Greenhouses.

By Kouta KAWAUCHI

(キーワード: 施設ミカン, ミカンハダニ, スワルスキーカブリダニ, 防除体系)